

太陽系科学データベースと「国際惑星科学データベース連合」

Solar System Science Database and International Planetary Data Alliance

笠羽 康正 [1]; 篠原 育 [2]; 岡田 達明 [3]; 祖父江 真一 [4]; 奥村 隼人 [5]; 高島 健 [3]; 安部 正真 [3]; 今村 剛 [6]; 吉川 真 [7]
Yasumasa Kasaba[1]; Iku Shinohara[2]; Tatsuaki Okada[3]; Shinichi Sobue[4]; Hayato Okumura[5]; Takeshi Takashima[3]; Masanao Abe[3]; Takeshi Imamura[6]; Makoto Yoshikawa[7]

[1] 宇宙機構/宇宙研; [2] 宇宙機構 / 宇宙研; [3] 宇宙研; [4] 宇宙機構; [5] JAXA/SELENE; [6] JAXA 宇宙科学本部; [7] ISAS/JAXA

[1] JAXA/ISAS; [2] JAXA/ISAS; [3] ISAS/JAXA; [4] JAXA; [5] JAXA/SELENE; [6] ISAS/JAXA; [7] ISAS/JAXA

現在、JAXAでは天文・太陽・地球磁気圏観測衛星を横断的に扱う

「DARTS」(Data ARchive and Transmission System) <http://www.darts.isas.jaxa.jp/>

の開発運用に成功している。

このベースの上にたち、「はやぶさ」と「Selene」、およびその先の「Planet-C」「BepiColombo」を念頭においた「惑星統合データベース」の構築検討を進めている。

また、国際的には、「International Planetary Data Alliance」という動きが開始され、NASA(JPL)/PDS、ESA/PSA、JAXA/DARTS、RKA、CNSA(、ISRO)他による共通データベース定義の議論が始まった。

構築に要するインフラ・労力の削減とユーザー利便性のため、太陽・地球磁気圏を含めた「太陽系全体」のデータアーカイブ構築検討としている。

本講演では、これらの現状を報告する。